

プロジェクトで取り組んだ課題

- ・参加型による地図作成プロジェクトを通じた復興支援の手法の確立

プロジェクトの結果（≒提言の内容）はどのようなものか

- ・OSMは徐々に地域に浸透してきている（とくに地域メディア、NPO、行政）。
- ・誰もが参加できるようマッパー同士が集える場（ベースキャンプ）を更に増やしていく。
- ・とくに地域の大学との連携をすすめ、若い世代に浸透していく戦略をとるべき。
- ・初心者向けのコンテンツ/ツールをより充実・選択の幅を広げる。
- ・最終的にはデジタルで完結せず、紙やモノとしてのアナログ地図へ発展することが重要である。

プロジェクトの結果（≒提言）は、何を变えることを狙って、誰に向けて発信するか

地域の地図づくりにオープンストリートマップを採用することで、  
今までバラバラにメンテナンスし、十分に継承・更新出来ていなかった  
地域の地図づくりコミュニティ（観光協会やNPOなど）が  
一元管理でき、継続的に更新できるようになる。  
また、地域のコミュニティと日本中、世界中のグローバルなコミュニティが  
オンラインでつながることで、  
誰もが地域の地図情報が幅広く利活用されるようになる。